

令和4年2月定例会一般質問発言通告表

発言 順序	3 議席 番号	4 氏名	辻 村 岳 瑠 議 員	1 / 1
発 言 項 目		要 旨		答 弁 者
1	住み慣れた地域で暮らし続けるための高齢者に対する支援について	<p>社会状況の変化から、今後の老人福祉法に基づく措置によって施設へ入所することに関して伺う。全国的な人口減少と世帯数の増加に加え、市内においても、高齢者夫婦世帯及び高齢者単身世帯が増加している。また、認知症、高齢者虐待の増加、地域の繋がりの希薄化、制度の狭間の支援など、行政主導の措置の必要性は今後さらに高まっていくと考えられる。</p> <p>当市の第9次富士宮市高齢者福祉計画の基本理念「地域で楽しく一人ひとりが役割を持てるオール富士宮」の実現を目指し、団塊の世代が後期高齢者になる2025年を見据えた入所措置について以下伺う。</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 1年に5回行われる入所判定委員会では、毎回3～4名を対象に審査が行われていると聞くが、これまでに対象となった方の延べ人数を伺う。 (2) 老人福祉法に基づく措置によって施設へ入所された方のうち、やむを得ない事由による措置で入所された方はこれまで何人いるのか。 (3) 市内の措置施設は50床あるが、令和4年2月1日現在満床である。現状において、入所措置を必要とする方は、どこの施設に入所することになるのか。 (4) 入所者の高齢化による課題は、施設でも同様である。措置によって施設に入所しながらも、介護保険を利用している方はいるのか。 (5) 入所措置であっても、住み慣れた地域で暮らしたいという思いをかなえるために、地域の老人福祉法の施設を有効活用する入所措置の方法は考えられるのか。 		市 長 副 市 長 関 係 部 長
2	富士宮市の店舗が観光目的地として選ばれるために	<p>小売業、飲食サービス業及び娯楽業を取り巻く環境は、デジタル通貨の導入、非接触型レジ、セルフレジ、無人販売など、コロナ禍が収束した後にも大きな変化が予想される。これまで市では、さまざまな商業振興施策により活性化を図っているが、今後、観光消費額を増やすといっても、現状の商業分析や課題整理が十分でなく、具体的な目標値が定まっていないと考える。観光消費額を上げることを目的とし、顧客の視点に立ち、観光目的地として選ばれるために、以下3点提案するが、市の考えを伺う。</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) ペイペイが自治体と協力し実施しているキャンペーンは、3割の還元サービスをはじめ様々な特典があり、これにより観光目的地として選ばれる可能性が高い。観光消費額の拡大につながる、ペイペイと自治体が連携した企画の導入を提案するがいかがか。 (2) 障がい者の社会参画の促進や、ユニバーサルツーリズムの普及・促進のため、ミライロIDを導入する自治体が増えている。ミライロIDを公共交通機関や各種施設に導入することを提案するがいかがか。 (3) 市内全域の小売業、飲食サービス業及び娯楽業を対象とし、現状の分析や将来目標、目標に対する市の取組などを記載する「富士宮市の商業基本計画書」の策定を提案するがいかがか。 		市 長 副 市 長 関 係 部 長